

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290400385		
法人名	社会福祉法人 出東福祉会		
事業所名	グループホーム出東ララ(西棟)		
所在地	島根県出雲市斐川町三分市1072-1		
自己評価作成日	平成28年 2月 20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/32/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=3290400385-00&amp;PrefCd=32&amp;VersionC">/www.kaijokensaku.jp/32/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=3290400385-00&amp;PrefCd=32&amp;VersionC</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	平成28年 3月 23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・自然あふれる田園風景の中で、同法人運営の保育園園児とふれあうことにより、人を愛しみ、生命を守り、その人らしさを大切に支援していきます。  
 ・利用者一人ひとりの「できること」を引き出し、達成感と意欲を持てるようなサービス(花生け・野菜作り・料理・裁縫等)を提供し、その人らしさを発揮出来るような場を設けていきます。  
 ・一人ひとりの利用者の気持ちに添い、心穏やかに明るい生活を維持出来る様援助していきます。また、ご家族と連絡を密にし、ご家族に安心感をもってもらうとともに、ご家族と利用者との絆を深める役割であることを認識し、支援していきます。利用者は、地域の中の一員であることにより、地域の特性や文化を活かし地域行事等の情報を集め、積極的に参加できる機会をつくっていきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホーム出東ララは法人のデイサービス、保育園が併設しており、また、幼稚園、小学校も隣接した環境にあり、日々交流やふれあいが可能となっています。地域との関わりも活発で、地域の様々なボランティアの方が訪問頂き、利用者の方も一緒に楽しんでいます。避難訓練には地元消防団にも協力頂き参加頂かれています。利用者一人ひとりの出来る事を引き出してあげようと、色々なサービスを用意し、利用者自身も頑張ってい頂けるよう取り組まれています。転倒の恐れがある利用者の方にはケアプランに沿ってリハビリや見守りをされ転倒がないよう支援されます。ホーム全体が明るく、職員の対応も利用者との会話はやさしく穏やかに笑顔も見られました。その中で利用者の方々は思い思いゆったりくつろいでおられました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として、安心して暮らすことが出来るよう理念に基づいて職員と共に共有して実践に繋げている	「地域の一員として、安心して暮らすことができる」の理念の基、月1回職員会議で利用者の様子や支援等話し合い振り返りを行いながら実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同法人運営の保育園・デイサービスや公民館(コミュニティセンター)への外出もしており地域の一員として日常的に交流している	併設して法人の保育園、デイサービス事業所がある。保育園児との触れ合いやデイサービス利用者との交流もある。出東小学校社会科研修、民生委員等研修等も受け入れられている。近隣ボランティアの方との交流も盛んでそば打ち、出雲芸術アカデミー「音楽と音楽家の出前演奏会」や出東コミュニティーセンターの太極拳、カローリングクラブ等来られている。また、出東コミュニティーセンターとも公民館祭に出かけたり、コミセン喫茶で地域の方と一緒にお茶を飲まれたりもされる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方等の研修や近隣小学生の学習の一環として、事業所の内容・高齢者の心理を理解、支援に繋げていけるよう努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出東ララでの取組みを伝え、委員からの意見をその都度取入れ、振り返りにて実践に繋げている	出雲市高齢者福祉課、あんしんセンター、出雲コミュニティーセンター長、地域住民代表、法人代表、ララ管理者、ララ職員が集まり2ヶ月に1回開催されている。利用者状況、行事、研修等が報告され、意見交換が行われている。頂いた意見等はサービスに活かすようにされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状報告や相談等を面談や電話を通じて助言を頂きながら日々取り組んでいる。	運営推進会議にも出席頂いている。現状報告、制度等についての質問や困難事例があれば相談される。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、事業所内での考え方を、職員間で話し合い互いに勉強し統一したケアに取り組んでいる	職員会議、各ユニット会議で身体拘束、虐待の研修をされ身体拘束やスピーチロック等の考え方についてホーム内で話し合われ、統一されたケアになるよう取り組まれている。管理者は気に掛かる点があれば都度指導されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の共通意識を図るとともに専門職で従事していることへの自覚が持てるよう見過ごしのないように注意し防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持つよう努力している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更等ある場合には、必ずご家族に文章にて報告すると共に、面会時には、個別に説明をし、理解を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、ご家族との清掃奉仕、家族会等には前もって案内文を出し、出来るだけ参加して頂くようにしている。又、面会時には管理者から声をかけ、日頃感じていること等を話してもらう機会を設け運営に反映させるよう努めている	家族の方が面会に来られた際には日々の様子を伝えている。なかなかこれない家族には月1回便り送付し、職員の手紙や電話で様子を伝えている。意見要望等は管理者が聞き取り、サービスに反映されている。	電子メールで日々の様子や利用者さんの良い表情を家族個々に伝えることも検討されても良いと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回運営に関することや職員の意見や提案を面談方式で行っている	個人面談は年2回実施されており、職員の意見や思い等を聞いている。管理者は月1回の法人会議に出席し、運営状況等を報告される。職員は管理者に意見や相談等がしやすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の職員の表情や勤務に対する姿勢を見て気になる場合には、職員に声かけをしている。職員から自発的に話しが出来るような姿勢や機会、時間を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を定期的に受けている。職員一人一人の力量アップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修情報を職員に通知し、積極的に同業者と交流する気持ちを持たせるようには努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込みの際に、相談にのり、入居決定時には、管理者とケアマネジャーが実調査に行き、ご本人の安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定時の実調査にて現状把握と信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を把握し、個々に合った支援が可能な限り出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他利用者と一緒に、洗濯たみや食事の下準備をしたり、職員と掃除をしたりして暮らしを共にして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時ご家族にご本人の生活の状況を職員がお話し共に支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴の把握に努めご家族から馴染みのある物等を持参して頂き居室に飾ったりしている。又外出支援している。	家族と一緒に自宅まで外出やホーム近くの美容院に行かれるなど馴染みの関係や場所が途切れない支援が行われている。出東コミュニティーセンターで実施されているコミセン喫茶に出かれる利用者は楽しみの一つとなってきており、馴染みの関係となってきている。地域のボランティアも多数ホームに来られ交流が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の希望に配慮し交流しやすい席配置にし、職員も交流の仲立ちをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にもご本人に面会に行ったりし家族様とも交流が持てるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、ご本人の希望や意向をお聞きしたりして把握に努めている。困難な場合には、家族から意見を聞いたりご本人本位に検討している。	西ユニットは静かな方も多いが、希望等を話して頂ける方もある。困難な方は生活歴、アセスメント情報や家族からの情報提供から把握するようにされている。	思いや意向を日ごろの会話や様子などから生きる目的や目標となるようなヒントを見つけ出されると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のケアマネジャーからの情報やご家族からの情報、又ご本人との日常会話の中から得よう努力あいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りにて状態の把握を行っている。ユニット会にて情報共有と話し合いの場を持っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況に応じて家族の方へ報告し、ご本人も含めご要望を伺い、ケアプランの作成を行っている。	利用者や家族の思いや要望等を聞き、個々の状態に沿ったケアプランが作成されている。カンファレンスを毎月実施し、モニタリングを2ヶ月に1回される。評価、見直しについては6ヶ月に1回実施されている。サービス内容については業務日誌、チェック表、介護記録等で確認できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、その時の状況、それに対してのケアの実践、結果、工夫など記入し、情報の共有しながら実践ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋がショートステイに出来るようにする等ニーズに合わせて対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ法人内の保育園園児との交流や民生委員、ボランティアの方と連携している。近隣のコミュニティセンターの行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望にて受診先や往診先を決めて頂き、共に協力し支援している。	利用者、家族の希望により往診可能な協力医をかかりつけ医にされている。整形、眼科など他科受診は原則家族の方が同行され、無理な場合は職員が対応される。管理者、看護師はかかりつけ医と連携を取り支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化や様子はその都度報告、相談し個々の利用者が適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前後の情報交換を行っている。退院時にはカンファレンスに参加し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員、主治医とともにご家族に現状の報告や今後についてのカンファレンスをし、それを通じて終末ケアになった場合に備えて終末期のあり方を事業所の職員間で話し合いをしている。	入所時にホームの指針と看取りについては、本人、家族にも説明される。ホームで可能な限りのケアは行われるが、現在のホームの体制では、医療行為が必要になった場合の対応が難しい現状である。このことについても家族の方には説明されている。終末期ケアになった場合に備えて、終末期のあり方を管理者と職員は話し合いをされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にて職員全員で研修を受けたり、主治医・看護師から定期的に急変時の対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団の方に協力を得て防災訓練を行った。又、地震、災害時の避難方法を職員、利用者の方と確認し合った。	年2回消火訓練、避難訓練を実施されている。夜間想定訓練には地域の消防団の方の協力も得られ参加頂いた。水害時避難は隣にある小学校に避難となる。備蓄は水、食料用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した声かけをしている。職員自身も気をつけるよう心がけている。	接遇の内部研修をされ、人格の尊重、プライバシー保護について職員も理解されている。排泄、入浴の声かけうあ羞恥心に気をつけ支援されている。入所後は特に気をつけた声かけをされる。管理者、リーダーは都度指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を表せるよう傾聴に心がけている。又自己決定出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方に合わせ希望をお聞きしたり、こちらから提案させて頂き、出来る限り希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい身だしなみが出来るよう日常個々に支援している。希望により、移動散髪車をりようしたり、近隣の美容院に行くなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方に出来る範囲で無理のないよう食事の下ごしらえ等をして頂いている。又、食事には利用者の役割を称えるよう声かけと感謝を述べるようにし、ご本人への達成感と満足感、次への意欲を持てるよう配慮している	栄養士の助言のもと調理師や職員は利用者に沿ったメニューで食事を作られている。利用者は職員と一緒にジャガイモなどの皮むき、野菜の下ごしらえなど準備され、下膳される方もある。おやつ作りや誕生日ケーキ、ひな祭り、節分、彼岸等の行事食も楽しませられている。そば打ちボランティアのそばも楽しみとなっている。家族と受診された時外食を楽しまれる方もおられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士からの助言を含め、調理師や職員と共に利用者に添ったメニューを考慮している。又、主治医からの栄養摂取データを参考に栄養に気をつけている。水分摂取量や食事量も個々に添った介助、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人の状態に合わせ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し声かけが必要な方は声かけをしトイレ誘導をしている。ポータブルトイレやトイレへの使用は必ず行っている。	声かけやトイレ誘導でトイレで排泄支援行われチェック表に記録される。一人でトイレに行かれる方は見守りや言葉使いに気をつけプライバシーを損ねない配慮をされている。夜間オムツ対応の方がおられるが昼間はリハビリパンツとパッドで声かけトイレで排泄の支援をされ排泄機能が低下しないよう維持継続をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに合わせ水分を多く摂って頂いたり、運動、腹部マッサージを行っている。適宜状態を診ながら下剤も用意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や希望を配慮し入浴支援している。	利用者の体調や希望により週2回、午前、午後、曜日に合わせた支援が行われている。気候が良くなれば週3回の入浴が行われる。拒否の方も時間やタイミングを図りながら入浴して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその日の体調や希望に応じ休息して頂いたり、夜間良眠出来るよう日中は楽しみの提供し、離床を心がけ支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用されている薬の一覧をファイルし、何時でも見る(確認)ことが出来る。又、主治医、看護師に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方に興味を持たれる話題など提供したり、季節におうじた作品作りやドライブ等を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所周辺の散歩やドライブ等外出している	気候の良い日はホーム周辺の保育園、デイサービス、幼稚園などがありを散歩散歩をされ触れ合いがある。ドライブに出かけられ景色を楽しまれる。コミセンの喫茶店でお茶を飲まれる方もある。桜の時期はホーム前や出東保育園に桜を見に出かけられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている利用者はいないが希望もないので実施なし。ごかつぞくとの外出で買物されたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者ある。自由にかけている。適宜使用説明の支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、ソファや和室がある。ソファから外の田園風景を見る事が出来たり、バルコニーから庭へ出ることも出来るようにしており、季節の移り変わりを感じる事が出来る。音、光、温度には常に配慮している。	ホールにはソファや畳の間が用意されている。天井には天窓がありホールは明るく温度管理されている。ホールは床暖房で足元から温まる事ができる。西棟それぞれお雛様が飾ってあり季節感を取り入れられていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにすわり景色を眺められたり、機の合う方同士会話をしやすいようにホール席を配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族との写真や使い慣れたタンスなど持ち込まれている。こちらでご本人の作品を飾りその人らしさをだしたり工夫している	畳、フローリングに分かれており畳の部屋でも転倒の恐れのある方はベッド使用など工夫され安全に過ごせるようになっていた。使い慣れた筆筒、椅子、家族の写真、カレンダーなどを持ち込まれている。小物、花などで飾り付けをされて家庭的な雰囲気となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ること、わかることを活かして出来るだけ自立した生活や安全で居心地よく生活が出来るような環境づくりを行っている。		